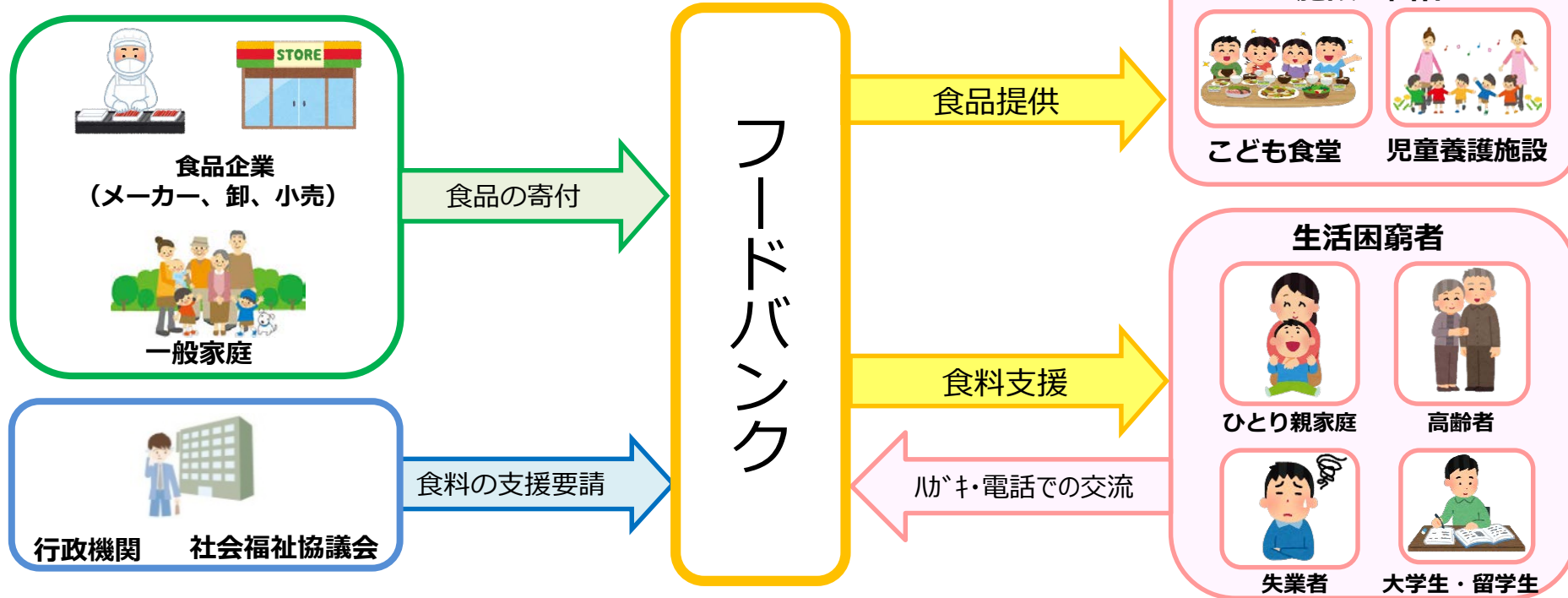


孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、 つながるための緊急フォーラム

2021年2月25日

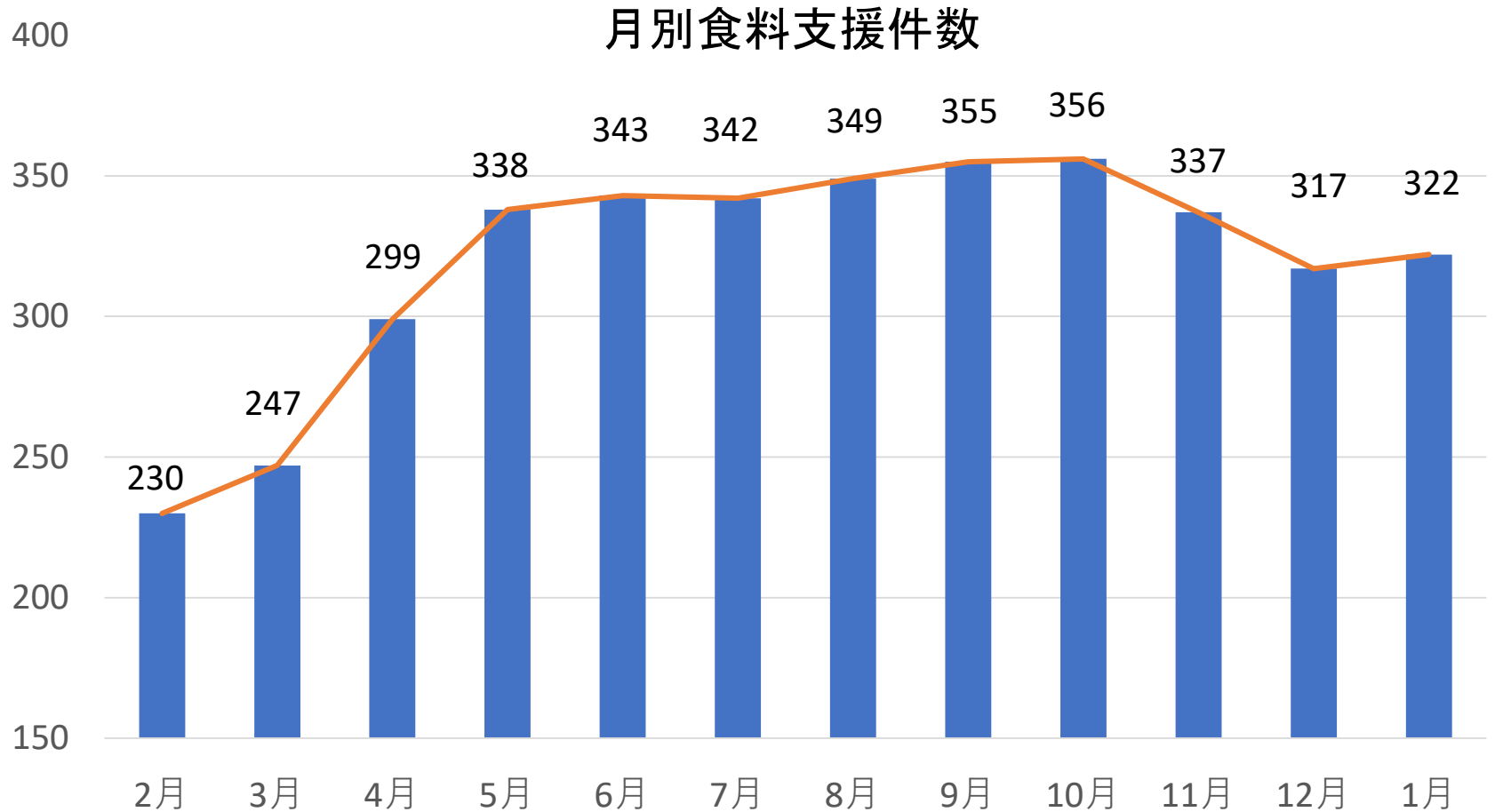
フードバンク活動について

社会全体で食の支援を行う仕組み



- 現在、国内では130以上のフードバンク団体が活動、こども食堂や行政等と連携して食品の支援を実施
- 国内フードバンクの年間食品取扱量は約4,000トン
- 全国フードバンク推進協議会は、フードバンク活動を普及推進し、食品ロス削減と貧困問題解決を目指し2015年に設立

食料支援件数の推移（2020年2月～2021年1月）



行政等からの支援要請に基づく食料支援件数（認定NPO法人フードバンク山梨）

- 行政などからの食料支援要請が多い時期で**約1.5倍まで増加**
- **これまでは貧困とは無縁で、普通に生活してきた世帯までも**生活困窮に陥っている
- 将来に対する不安、相談相手がいないため孤立、経済的、精神的に追い込まれている人が増加
- **支援が必要な状況であっても、助けをもとめることを我慢している**

利用者からの声

**いつも届くのが楽しみです。
あけた時にいつもにこ
にこしてしまいます。**

(12才長女より)
(父子家庭 子ども2人)

私は今月お米を買わなくてすみま
した。牛乳や玉子、納豆、チーズ、
お肉などのいつももっと多めに食
べさせてやりたかったものにお金
をまわす事ができました。

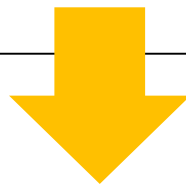
(祖母と孫の二人暮らし)

今回も子供と一緒に段ボールを開
けました。
最初に目に飛び込んできたのは
「まいにちがきみにとってたのし
くありますように」
のメッセージカードでした。目頭
が熱くなり涙があふれてきまし
た。(母子家庭 子ども2人)

子供2人を育てながら、仕事をし
ていて不安がいっぱいの中、暖か
いお手紙と食品を頂き、涙が止ま
りません。
常に手紙を持ち歩き、心が詰まっ
た時に目を通すと励みになりま
す。
一人では母子家庭だ(子ども2人)。

社会的な価値観の変化

- 貧困は個人だけの責任ではなく、コロナ禍における失業、収入減等、 **社会環境の変化による影響も大きいことを多くの国民が理解している**
- 困っている人を助けたいという人も増えて続けている
- 過去20年間で、日本社会の貧困に対する価値観は大きく変わっている



困ったときはお互い様、一人で悩まず、声を上げてほしい

今後に向けて

■ フードバンク活動における日本とアメリカの比較

	日本	アメリカ
フードバンク団体の数	130団体	200団体
フードバンクの年間取扱量	4,000トン	7,800,000トン

- ・ 国内フードバンクの年間食品取扱量は4,000トン。**アメリカの約1/2000**
- ・ フードバンクへの支援要請は急増している一方で、支援に必要な食品が不足、ボランティア参加者も減少

■ 政府からフードバンクへの支援

- ・ 2019年5月 食品ロス削減推進法の成立（フードバンク活動への支援も明記）
- ・ 2020年3月 政府備蓄米の無償交付
- ・ 2020年5月 フードバンク活用の促進対策及び再生利用の促進対策等
- ・ 2021年2月 政府備蓄米の交付要件の緩和、交付重量の増加

- 社会的な支援ニーズの増加に対応するためには、フードバンク団体の食品取扱量を増やすことが重要であり、フードバンク団体の基盤（保管、運搬、配布能力）の強化が必要です。
- フードバンク団体の基盤強化に向けて、より一層のご支援をお願いいたします。